



子どもゆめ基金[®]ガイド

2011



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構



目次

「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
平成23年度 応募・採択状況	4
平成20年度～22年度 応募・採択状況	5
平成22年度助成活動事例（子どもの体験活動）	6
平成22年度助成活動事例（子どもの読書活動）	26
平成22年度助成活動事例（教材開発・普及活動）	32
普及啓発事業の実例	34
「子どもゆめ基金」への寄付団体	36

「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

今日、都市化や少子化、情報化などが進展する中で、社会全体で様々な課題が生じるとともに、子どもたちをめぐる様々な問題は複雑化・多様化してきています。平成24年度に全面実施となる新学習指導要領においても、その改善内容には、体験活動等の充実や、言語活動の充実などが盛り込まれています。

また、体験活動に関する最近の調査（（独）国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」による）では、「子どもの頃

の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」（成人調査）、「友だちの多い子どもほど学校好き、憧れる大人のいる子どもほど働くことに意欲的」（青少年調査）など、子どもの頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

この基金は、未来を担う夢を持った子どもの健全育成を進めるため、自然に触れ親しむ活動、科学実験などの科学体験活動、異年齢間の交流を促進する活動、絵本の読み聞かせ会などの読書活動といった地域の草の根団体が実施する様々な体験活動や特色ある新たな取り組み、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

● 助成対象活動 ●

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

活動例

- 1 子どもを対象とする体験活動
 - ・ 自然観察、キャンプなどの自然体験活動
 - ・ 科学実験教室などの科学体験活動
 - ・ 清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動 など
- 2 子どもの体験活動を支援する活動
 - ・ 子どもの体験活動の指導者養成 など



子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

活動例

- 1 子どもを対象とする読書活動
 - ・ 読書会活動、読み聞かせ会 など
- 2 子どもの読書活動を支援する活動
 - ・ 子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など



子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

活動例

- ・ 子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動



● 助成対象団体 ●

民法法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発（子どもゆめ基金ガイドの作成、子どもゆめ基金PRビデオの作成、普及啓発事業の実施等）

助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

審査方法

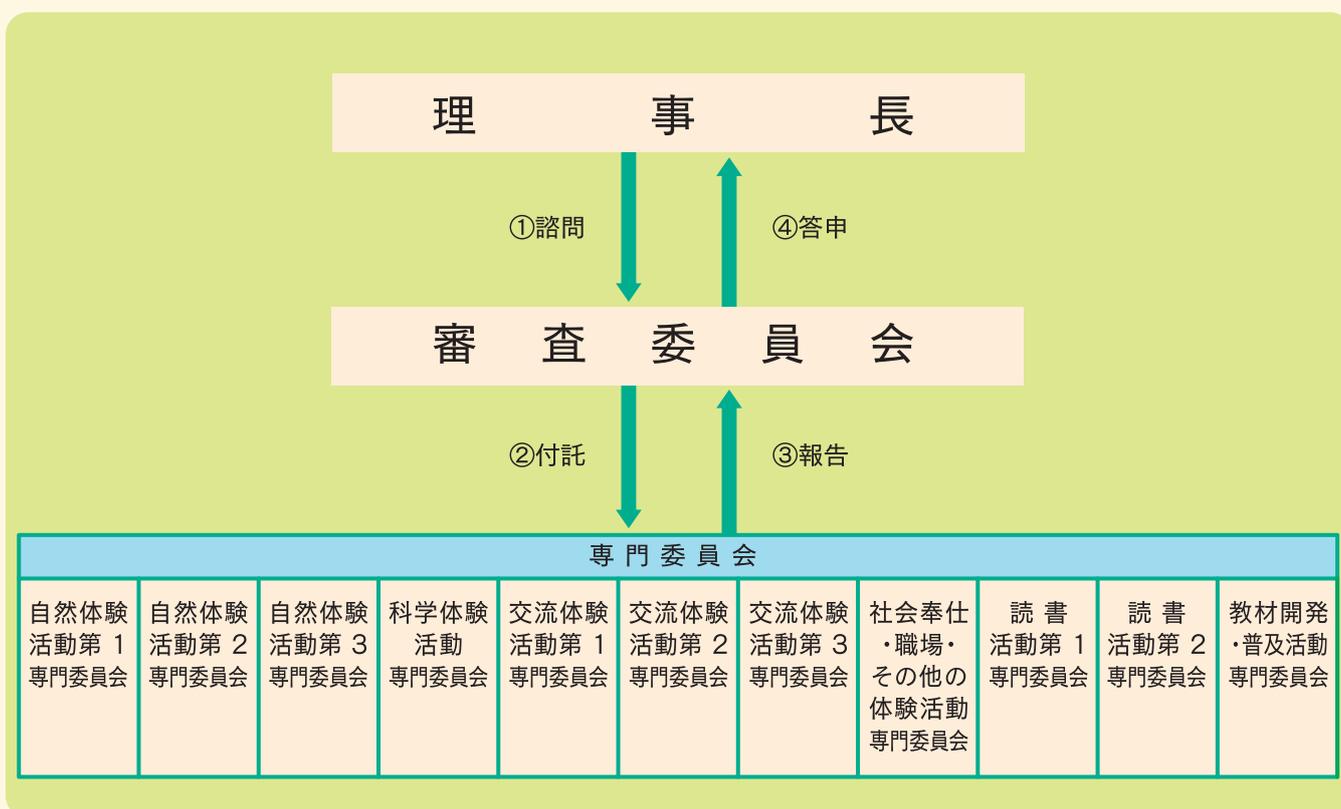
子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野

において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、そのもとに各分野別の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

応募のあった活動については、機構理事長から審査委員会へ助成活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から専門委員会へ調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定（選定）を行います。

審査委員会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



平成23年度 応募・採択状況

(4月1日現在)

平成23年度 応募・採択状況

活動区分別応募・採択状況

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	3,436	2,804	1,225,753
子どもの読書活動	640	538	212,411
教材開発・普及活動	113	30	210,556
合計	4,189	3,372	1,648,720

都道府県別応募・採択状況

(単位：千円)

都道府県	活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	子どもの体験活動	221	199	74,397
	子どもの読書活動	34	29	9,404
	教材開発・普及活動	3	1	7,500
青森県	子どもの体験活動	19	17	4,959
	子どもの読書活動	0	0	0
	教材開発・普及活動	0	0	0
岩手県	子どもの体験活動	24	23	12,586
	子どもの読書活動	5	5	1,285
	教材開発・普及活動	1	1	7,221
宮城県	子どもの体験活動	46	38	15,092
	子どもの読書活動	4	4	2,226
	教材開発・普及活動	3	0	0
秋田県	子どもの体験活動	14	11	4,145
	子どもの読書活動	9	5	1,721
	教材開発・普及活動	1	0	0
山形県	子どもの体験活動	16	15	6,416
	子どもの読書活動	3	3	757
	教材開発・普及活動	0	0	0
福島県	子どもの体験活動	42	30	15,502
	子どもの読書活動	9	8	5,198
	教材開発・普及活動	2	0	0
茨城県	子どもの体験活動	49	36	16,361
	子どもの読書活動	12	11	1,229
	教材開発・普及活動	0	0	0
栃木県	子どもの体験活動	56	49	15,360
	子どもの読書活動	23	17	6,281
	教材開発・普及活動	1	0	0
群馬県	子どもの体験活動	52	48	15,180
	子どもの読書活動	2	1	274
	教材開発・普及活動	1	1	7,574
埼玉県	子どもの体験活動	75	61	26,616
	子どもの読書活動	13	12	3,913
	教材開発・普及活動	1	0	0
千葉県	子どもの体験活動	114	93	31,668
	子どもの読書活動	13	11	2,430
	教材開発・普及活動	5	2	10,567
東京都	子どもの体験活動	605	477	305,369
	子どもの読書活動	87	77	76,342
	教材開発・普及活動	44	15	110,991

都道府県	活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
神奈川県	子どもの体験活動	113	77	35,410
	子どもの読書活動	21	16	4,174
	教材開発・普及活動	4	0	0
新潟県	子どもの体験活動	77	54	23,176
	子どもの読書活動	11	10	4,074
	教材開発・普及活動	0	0	0
富山県	子どもの体験活動	19	19	7,138
	子どもの読書活動	3	3	353
	教材開発・普及活動	2	1	9,997
石川県	子どもの体験活動	45	37	15,908
	子どもの読書活動	8	7	1,636
	教材開発・普及活動	1	0	0
福井県	子どもの体験活動	41	36	19,671
	子どもの読書活動	5	2	582
	教材開発・普及活動	0	0	0
山梨県	子どもの体験活動	26	24	10,839
	子どもの読書活動	9	9	1,383
	教材開発・普及活動	0	0	0
長野県	子どもの体験活動	98	81	28,693
	子どもの読書活動	14	11	2,436
	教材開発・普及活動	5	3	18,856
岐阜県	子どもの体験活動	68	56	22,622
	子どもの読書活動	6	4	828
	教材開発・普及活動	8	0	0
静岡県	子どもの体験活動	60	47	21,391
	子どもの読書活動	12	10	2,990
	教材開発・普及活動	3	0	0
愛知県	子どもの体験活動	90	69	28,516
	子どもの読書活動	13	8	1,982
	教材開発・普及活動	6	2	12,190
三重県	子どもの体験活動	32	24	7,384
	子どもの読書活動	3	3	690
	教材開発・普及活動	0	0	0
滋賀県	子どもの体験活動	64	61	21,153
	子どもの読書活動	22	17	5,752
	教材開発・普及活動	0	0	0
京都府	子どもの体験活動	78	64	29,858
	子どもの読書活動	10	7	1,935
	教材開発・普及活動	6	1	7,450

都道府県	活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
大阪府	子どもの体験活動	300	233	74,539
	子どもの読書活動	60	50	11,701
	教材開発・普及活動	5	0	0
兵庫県	子どもの体験活動	138	113	55,834
	子どもの読書活動	18	15	5,965
	教材開発・普及活動	4	2	10,710
奈良県	子どもの体験活動	32	21	6,140
	子どもの読書活動	13	13	3,951
	教材開発・普及活動	0	0	0
和歌山県	子どもの体験活動	26	23	9,026
	子どもの読書活動	6	5	1,613
	教材開発・普及活動	1	0	0
鳥取県	子どもの体験活動	14	11	3,338
	子どもの読書活動	5	5	2,266
	教材開発・普及活動	0	0	0
島根県	子どもの体験活動	18	11	3,710
	子どもの読書活動	14	12	4,219
	教材開発・普及活動	0	0	0
岡山県	子どもの体験活動	52	46	14,679
	子どもの読書活動	6	5	820
	教材開発・普及活動	1	0	0
広島県	子どもの体験活動	35	30	12,887
	子どもの読書活動	4	2	351
	教材開発・普及活動	0	0	0
山口県	子どもの体験活動	24	20	7,274
	子どもの読書活動	11	9	4,018
	教材開発・普及活動	0	0	0
徳島県	子どもの体験活動	61	52	17,278
	子どもの読書活動	8	8	1,614
	教材開発・普及活動	0	0	0
香川県	子どもの体験活動	27	22	7,117
	子どもの読書活動	10	8	1,683
	教材開発・普及活動	0	0	0

都道府県	活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
愛媛県	子どもの体験活動	35	31	11,388
	子どもの読書活動	1	1	200
	教材開発・普及活動	0	0	0
高知県	子どもの体験活動	17	15	5,476
	子どもの読書活動	3	2	241
	教材開発・普及活動	0	0	0
福岡県	子どもの体験活動	174	151	49,770
	子どもの読書活動	47	40	9,919
	教材開発・普及活動	0	0	0
佐賀県	子どもの体験活動	14	10	5,220
	子どもの読書活動	2	2	551
	教材開発・普及活動	0	0	0
長崎県	子どもの体験活動	57	52	11,574
	子どもの読書活動	3	2	755
	教材開発・普及活動	0	0	0
熊本県	子どもの体験活動	76	63	35,665
	子どもの読書活動	30	24	7,877
	教材開発・普及活動	0	0	0
大分県	子どもの体験活動	20	19	14,325
	子どもの読書活動	5	4	1,265
	教材開発・普及活動	0	0	0
宮崎県	子どもの体験活動	26	20	8,223
	子どもの読書活動	16	15	4,405
	教材開発・普及活動	0	0	0
鹿児島県	子どもの体験活動	115	91	41,248
	子どもの読書活動	22	21	5,241
	教材開発・普及活動	1	1	7,500
沖縄県	子どもの体験活動	31	24	15,632
	子どもの読書活動	5	5	3,881
	教材開発・普及活動	4	0	0
合計	子どもの体験活動	3,436	2,804	1,225,753
	子どもの読書活動	640	538	212,411
	教材開発・普及活動	113	30	210,556

平成20～22年度 応募・採択状況

平成20年度

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,231	1,705	1,159,493
子どもの読書活動	516	450	219,390
教材開発・普及活動	84	28	278,581
合計	2,831	2,183	1,657,464

平成22年度

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,952	1,667	1,135,103
子どもの読書活動	418	370	193,525
教材開発・普及活動	72	31	324,855
合計	2,442	2,068	1,653,483

平成21年度

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,209	1,725	1,156,007
子どもの読書活動	542	464	226,490
教材開発・普及活動	82	29	289,590
合計	2,833	2,218	1,672,087

おおいた子ども劇場 2010年子どもキャンプ

募集対象／小学校4年生～中学3年生 活動日／平成22年8月6日（金）～8月9日（月）（3泊4日）

実施団体名／特定非営利活動法人 おおいた子ども劇場

構成員数／（正会員）114名 子どもゆめ基金助成回数／10回

連絡先／〒870-0021 大分県大分市府内町1丁目6-11 小財ビル502
TEL・FAX：097-536-1038 E-MAIL：oitagekijo@ap.main.jp

活動の概要

親は参加せず、子どもたち自身の手で作るキャンプを目指すために中学生が実行委員会をつくり、企画・進行・役割分担・グループ活動の計画等を自主的に話し合い、活動を進めます。

キャンプ当日は中学生の進行であそびやキャンプファイヤー等が行われ、子どもたちの笑顔がはじけます。楽しい活動の中で、幅広い年齢の仲間集団ができていきます。また、キャンプの取り組みと並行して指導者養成講座も行い、子ども活動を支える人材を育てることに力を入れています。



ご飯づくりも子どもたちで

活動の日程・内容

中学生実行委員会

活動日	時間
5月29日（土）	14時～17時
6月19日（土）	14時半～17時
7月10日（土）	13時～17時
7月19日（月・祝）	10時半～12時半
7月27日（火）	10時半～12時半
8月4日（水）	13時～17時

子どもキャンプ（8月6日（金）～8月9日（月））

1日目	午後	集合、出発、入村式、夕食作り
	午前	朝食作り、グループでのあそび
2日目	午後	全体あそび、夕食作り
	夜	きもだめし
3日目	午前	朝食作り、グループでのあそび
	午後	泥つけ大会、夕食作り
	夜	キャンプファイヤー
4日目	午前	朝食作り、グループの時間
	午後	退村式、移動、解散式

※太字は中学生企画プログラム



2日目：全体あそびでのゲーム

中学生の実行委員会がつくる キャンプのポイント

一日が終わる度にグループでまとめの会を行い、よかった点、問題点などを出し合い、どうすればグループがうまくいくかを考えあいながら4日間を作っていました。この中でグループのまとまりや一人一人の成長が語られ、キャンプをより充実したものにできました。

中学生の実行委員会がつくる 企画のポイント

子どもたちと指導員とで、事前に4回グループ毎に全員参加の集まりをもち、一緒にあそぶ中でお互いの名前を覚えたり、食事のメニューや持ち物分担、グループの目印などをみんなで考えました。

キャンプでは中学生たちは、時間配分に苦労していましたが、全て計画通りに実行することができ、中でも苦労したご飯作りでは、準備に手間取り失敗しながらも、皆で作ったご飯はおいしく、子ども達も大満足の様子でした。

活動のねらい

- ①子どもの自治による異年齢の集団を作り、その中で互いに成長し合う関係を作ることを目指しています。
- ②中学生が集団をまとめるリーダーとして活動することにより、仲間の中で自分自身を再発見し、自分の価値を認め、お互いを認め合えるようになることを目指しています。
- ③3泊4日間の自然の中の体験で、子どもたちが心と身体を解放し、生き生きと自分を表現すること、たくさんの仲間と出会い、自分の世界を広げていくこと、自立心を育て、集団の中のルールや役割を守るなど、社会性・協調性を身につけていくことなどを願って取り組みました。



活動の成果

- ①ご飯作りなど、はじめは何も手を出せずにいた小学生もだんだんと役割を理解し自ら仕事をするようになり、集団の中で自分の位置を見出すことができました。
- ②中学生実行委員会の子どもたちは、企画・進行をやり遂げ、グループのリーダーとして役割を果たしたことで、仲間と固い絆で結ばれた実感を持ちました。
- ③この体験を通じて、人と人との繋がりの大切さを知り、互いの良さを認め合い、自分に自信をもつことができたと感じています。また、活動中は小学生たちが中学生たちをあこがれの眼差しで見えています。異年齢の繋がりのなかで、尊敬し合い、成長をする関係が生まれています。



この活動を実施したことによる団体の成長

キャンプの楽しさを子どもたちから、子どもの成長の様子を指導員たちから聞く中で、それらを見守る指導員の集団も成長しつつあります。

また、指導員達が成長するだけでなく、外部から参加した指導員もキャンプ後に当団体への入会を決めるなど、継続してのキャンプ参加を希望し、取り組みへの原動力となっています。



キャンプファイヤーでダンス

活動の課題

〈人材育成の難しさ〉受験・卒業・就職・転居等により、青年指導員が継続して活動にかかわることが難しいため、入れ替わりが早く、指導員集団の中心となる人材の育成が難しい状況にあります。どうやってリーダーを育てるかが課題です。

今後の展望

- ①子ども達にとって、安心して自分を表現でき、育ち合いの場となるキャンプを今後も継続し、子ども集団をより身近な地域に作っていくことで、多くの子どもたちが参加しやすい状況を作っていければと考えています。そのためには指導員の体制も強化していく必要があります。団体の中での人材育成に努め、活動の裾野が広がるよう、粘り強く取り組んでいきたいと思っています。
- ②活動に参加した指導員の中には、継続して活動に関わりたいとの声があり、貴重で頼もしいことと感じています。ひとりでも多くの青年が継続し、後に指導員の中心として関わっていただけるよう、声をかけ、つながりを作っていきたいです。

団体の概要

子どもの育つ環境の変化に危惧した母親や教師、文化関係者などにより1970年に発足。2003年2月、特定非営利活動法人となる。現在発足41年目。法人としては8年目となります。親子で生の舞台芸術を鑑賞する例会活動を年間5回（10作品ほど）と、キャンプやあそびの会、表現活動など、自分たちで計画して作る活動（自主活動）を柱に、子どもたちが心豊かに育つ場を作り出すことを目的に活動をしています。

高石「こどもゆめくらぶ」

募集対象／小学生 活動日／平成22年4月24日（土）～平成23年3月12日（土）（全19回）

実施団体名／高石「こどもゆめくらぶ」

構成員数／5名 子どもゆめ基金助成回数／3回

連絡先／〒592-0003 大阪府高石市東羽衣5-3-31

TEL・FAX：072-205-7421 E-MAIL：kaoruaki@sakai.zaq.ne.jp

活動の概要

高石市・堺市にまたがる大阪府立浜寺公園を主たるフィールドとし、公園近隣の小学生を対象に活動しています。1年間を通じ身近な自然を五感で触れ、観察やふしぎ発見、自然素材を使った工作など、遊びを通じた体験をしながら、命の大切さや、自然への関心を高めてもらうことを目的とした活動です。

定員は38名～40名です。10名以下で班を構成し、同じグループで1年間活動します。22年度は19回の活動を実施しました。



朝の集い

活動の日程・内容

9月25日「バッタと遊ぼう」（19活動中10活動目）

午前	<p>大阪府立浜寺公園内に集し朝の集い（参加者全員で「虫の声」を斉唱。）を行った後、「バッタの原っぱ」まで徒歩で出かけ、バッタ採りを楽しみながら、バッタの住む環境とバッタの種類、何を食べているかなどを学習しました。</p> <p>各自が採集したバッタの種類ごとに「バッタのオリンピック」と称してジャンプ台からバッタを飛ばしてその飛距離を競い、各種目のチャンピオンにはメダルを贈呈しました。ゲーム感覚を盛り込むことで、バッタを手掴みした事のない子供たちも自然にバッタと親しみ、遊び体験を通じて学習をしました。</p>
昼休み	<p>ウエスで作った手作り縄で大縄跳びを実施、参加者同士の交流が深まりました。</p>
午後	<p>ペーパークラフトでバッタ作りをしました。触覚が長いバッタや足の長いバッタ等子どもたちの個性がたくさん見られました。</p>

活動のポイント①

「バッタで遊ぼう」では採取したバッタは観察した後必ず逃がす、保護地域には入らない等、子どもたちに自然のルールを守らせました。

活動のポイント②

一班毎に2名以上のスタッフがつき、安全管理と活動のアドバイスすることで、子ども達一人一人の個性に合わせた遊び体験を行いました。



バッタの原っぱでバッタ採り

活動のねらい

子どもたち自ら身近な自然に遊びを通じて触れることで、子ども自身で感じ、考える力を身につけさせ命の大切さや自然への関心を高めてもらうことです。



活動の成果

「バッタの原っぱ」では採集したバッタを観察後は逃がす、バッタ保護地域には決して踏み込まないなどのルールがあり、それを守りながら、すべてのものが共生することの大切さ、生物の多様性を知り維持することの大切さ、人間が果たすべき役割などを考えるきっかけづくりができました。



この活動を実施したことによる団体の成長

この活動を始めて3年目から、続けて参加したいという希望者が続出し、修了生を対象としたセカンドコース(上級コース)を企画し実施しています。スタッフの確保やカリキュラムの内容など課題は多いながらも、参加した児童や保護者からは大変好評を得ています。



バッタのオリンピック

活動の課題

目的の一つとして身近な自然の中で活動をするというコンセンサスで活動をしており、地元の公園の魅力をより感じてもらうことがあります。

- ①管理された公園ではおのずと限界があり、子どもたちにより豊かな自然に触れさせてやりたく年一回、里山体験(お別れ遠足)を実施しています。
- ②郊外に出かける回数を増やすことも考えなければならないです。
- ③子どもたちに身近な自然を見つめなおす習慣を身につけさせる必要性と、自然は手づくりの遊具にもなるため、遊ぶことの楽しさも教えていきたいです。しかしながら、それを教えるスタッフはそれらを伝え、教えるプロではないことから、スタッフの研修の必要性があります。



ペーパークラフト

今後の展望

子どもたちに四季折々の活動を企画し実践をすることで、子ども達がどんなことに今興味があるのか、反対に興味がないことは何かを知り、今後の団体の活動の参考にしていきたいです。

団体の概要

平成16年4月この地(高石)に育った本谷あけみが発起人となりボランティア団体、高石「こどもゆめくらぶ」をたちあげ、おもにNPO法人シニア自然大学校修了生と地元の同志を集いスタッフとして、浜寺公園近隣の小学生を対象にした異学年、地域混合の小集団での「協同作業・自然体験」を目的とし、一年間継続した活動、高石「こどもゆめくらぶ」を開設。毎年シニア自然大学校を修了する講座生に呼びかけ、登録ボランティアスタッフとして活動をしています。

とことんエコツアー

募集対象／小学4年生～6年生 活動日／平成22年11月6日（土）～11月7日（日）（1泊2日）

実施団体名／特定非営利活動法人 体験村・たのはたネットワーク

構成員数／100名 子どもゆめ基金助成回数／7回

連絡先／〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10

TEL：0194-37-1211 FAX：0194-33-3355 E-MAIL：taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp

活動の概要

自然と調和して暮らしてきた漁村の営みを体験してもらいます。そしてその体験を切り口に環境について考え、議論し、より深く理解してもらうための1泊2日のプログラムです。



漁船体験：ガソリンは使わず手こぎでエコ



断崖トレッキング

活動の日程・内容

11月6日（土）		11月7日（日）	
午前	集合・移動・開会式・参加者交流ゲーム	午前	森林体験ネイチャーゲーム 断崖冒険トレッキング 魚料理体験
午後	番屋探検・漁船体験・移動・夕食	午後	昼食・エコワークショップ（フードマイレージについて） 閉会式・移動・解散
夜	エコワークショップ（ストーブ燃料と環境について） 星空観察・入浴・就寝		

漁村の実際の暮らしを見て、体験する活動のポイント

【番屋探検】：漁師が実際に使用している番屋が25軒集中した番屋群を、オリエンテーリング式に探検します。

【漁船体験】：漁師が実際に漁を行う漁場を見に行き、漁船を手こぎで漕ぐ体験をします。

【断崖トレッキング】：豊かな海を育み、薪と酸素の供給源でもある森林を探索します。

【番屋料理】：近くで獲れたばかりの魚を漁家のお母さんの指導と一緒に番屋で捌きます。

番屋・漁船は、すべて実際に使用している本物を使い、体験してもらいます。そのことで、参加者には偽りではない、本物の漁村の暮らしを体感させることができます。

体験を切り口に環境について考え、議論する活動のポイント

【何がエコなのか】：番屋では薪ストーブを暖房や調理に使い、また断崖の上の森林を歩いたことにより、参加者は森林が薪の供給源であることを認識します。そこで暖房燃料について、薪・電気・灯油と3種類を比較し、それぞれの流通や環境への影響を考え、議論します。

【環境への影響】：漁船で漁場を見学し、番屋料理体験では近くで獲れた魚を捌いて食べる体験。そこで、食料の流通や調理方法について考え、議論します。

答えではなくヒントを与えることで、子どもたちはじっくり考え、深く議論することができます。

活動のねらい

田野畑村で営まれている自然と調和した暮らしを体験し、自然とともに生きていることを子ども達に実感してもらいます。また、環境に深く関心を持ち、ただ「エコ」と言われることをよく考えずに実践するのではなく、それが環境にどのような影響を与えるかを子ども達が自分自身で多角的に考えることができるようになってもらいたいと思っています。



活動の成果

活動を通して、子どもたちの温暖化問題や資源循環、オゾン層破壊など様々な環境問題に関する意識を深めることができました。

参加者アンケートによると、「家でCO2の話をして、電気をこまめに消すようになった」という報告があり、活動の経験を生活で実践してもらえていることがわかりました。また、漁場を実際に見て自分で魚を捌いて食べた経験で、これまで魚を食べなかった子が魚を大好きになったという例が複数ありました。参加者の多くは沿岸地域在住者であったため、地域環境の見直しにつながり、また地産地消の促進にもなりました。



この活動を実施したことによる団体の成長

これまでも暮らしの営みの体験プログラムを実施しておりましたが、今回の事業を通じて、より環境に着目したプログラムを展開できるようになり、プログラムの幅が広がりました。



番屋料理体験

活動の課題

- 一部参加者には難易度が高かったようなので、わかりやすく伝えて、上手にヒントを与える工夫をする必要があります。
- 子どもたちが積極的に発言し、議論ができるような雰囲気づくりが必要であると感じました。
- 体験活動時、大人がつい手を貸してしまいがちであったので、子ども達に自主的に行動させ、大人は見守ることに徹するようにしたいです。



環境に優しい燃料は？

今後の展望

平成23年3月11日の東日本大震災による大津波により、漁港や番屋など、体験に必要な施設や資材の多くが流失してしまいました。現在復興中ですが、今後は施設や物資を失った現状の中で、いかに体験プログラムを再開または再構築し、三陸の自然の素晴らしさや、過去にも津波を乗り越えてきた暮らしのことを伝えていくかを模索中です。

団体の概要

陸中海岸国立公園にある田野畑村の雄大な自然と、そこで営まれる自然と調和した人の暮らしを体験プログラムとして一般観光および教育旅行で提供しております。体験観光という手段により、地域経済の振興や他の地域住民との交流、地域文化や自然の再発見と保護などを目指しています。

青空自然学校 2010 インストラクター養成講座

募集対象／一般成人 活動日／平成22年6月23日（水）～6月24日（木）（1泊2日）
6月26日（土）～6月27日（日）（1泊2日）

実施団体名／一般社団法人 青空net

構成員数／28名 子どもゆめ基金助成回数／6回

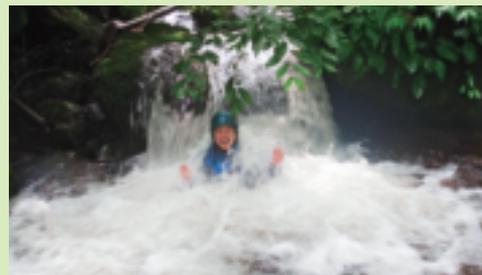
連絡先／〒667-1511 兵庫県美方郡香美町小代区神水545-1

TEL：090-2046-5888 FAX：0796-97-3275 E-MAIL：info@ao-zora.net

活動の概要

1泊2日を2回で構成された指導者養成講座です。

ロープを使った木登りであるツリーイングや、渓流の滝をみんなの力を合わせて登っていくシャワークライミングなど、冒険的なプログラムを安全に指導できる指導者を養成します。また、豊かな自然を舞台に活動することから、そこに住む生き物や周囲の森などの自然環境にも興味を持ち、人とのコミュニケーション能力を高めるなど豊かな感性を育むことができる活動です。



シャワークライミング実習風景

活動の日程・内容

●1回目

6月23日	10:00	自然体験憲章
	11:00	アドベンチャー理論の理解
	13:00	ツリーイングを使った樹上活動とロープワーク実習
	19:00	イニシアティブゲームと指導方法
6月24日	9:00	樹上から見た樹木調査、生態観察方法の体験、森林整備技術の体験
	11:00	ツリーイングの技術講習、応用技術体験
	13:00	ツリーイングプログラム及びセッティング実習
	15:00	ふりかえり

●2回目

6月26日	10:00	アドベンチャー及び環境教育プログラム立案のポイントについて
	13:00	シャワークライミング体験及び指導方法についての討議
	16:00	イニシアティブゲームとの体験
	19:00	イニシアティブゲームと指導方法
6月27日	9:00	野生動物の観察、指導方法を学ぶ
	10:00	子どもたちの心理的変化及び心の安全についての討議
	11:00	夏の青空自然学校2010の実施予定と内容検討
	13:00	リスクマネジメントについて
	15:00	ふりかえり

指導方法・リスクマネジメントのポイント

冒険的なプログラムの派手さの裏に隠れた、確実な技術と地道な練習の積み重ねの必要性を感じ、安全に対する高い意識を持ち、敏感な反応と判断できる力をつけるための講義を用意しました。

参加者の気持ち作りのポイント

プログラムやアクティビティの進行の中で見落としがちな参加者の心の動きと向き合う必要性を感じてもらおうための講義を用意しました。指導者側がプログラム指導の技術的な余裕を持たなければ起きるリスクについても考えてもらう必要があります。



ツリーイング体験で樹上の世界を楽しむ

活動のねらい

- ①子どもたちの持つ好奇心や可能性、主体性を育むため、自然を舞台にツリーイングやシャワークライミング等の冒険的なプログラムにチャレンジできる機会を提供できる指導者を養成します。
- ②人だけでなく周囲の森や動物たちとの共生についても考えさせるために、自然環境にも興味を持たせることにより、人としての総合的な感性を備えた子どもたちの育成に関わることでできる青空自然学校の指導者を養成します。



活動の成果

- ①冒険的なプログラムは経費的な問題を含め、養成講座はなかなか開催しづらい状況ですが、子どもゆめ基金の助成を受けたことにより、理想の養成講座が開催できました。
- ②今回は特に青空自然学校の実施場所において研修を開催できたことにより、実際のフィールドで起きるリスクや動植物の観察においては即戦力になる技術を習得できました。



この活動を実施したことによる団体の成長

活動技術や意識的に一定のレベルを持った指導者を養成できたことにより、活動の幅を広げることが可能になりました。今回養成講座に参加し誕生した新しい指導者は当面は主催する青空自然学校の運営が中心ではありますが、経験値を高めるためにも、他団体の事業へも指導者としての派遣を積極的に行っていく基盤ができました。

また、現在実施しているプログラムの幅を広げ、多くのアクティビティ（活動）を実施できる展望が開けました。



森の生き物観察方法の実習

活動の課題

- ①青空自然学校で使用しているフィールドは公有地や個人所有地が入り組んでいるため、使用にあたっては所有者との共通的な理解と協力を事前に得ることにより、より効果的な活動の適地を選択できるようにしていきたいです。
- ②指導者によっては、どうしても得意としている分野があり、指導したい活動が固定する傾向にあります。活動全体のプログラムが一通り指導できるよう技術力、応用力を高めたいです。

今後の展望

青空netの活動を支える会員や指導者が広範囲から集まっているため、頻繁な指導者ミーティング、研修会の開催がどうしても難しいです。今後の事業発展を考え、冒険プログラムの技術研修、理論研究を地域ごとに何度か分けて事業を実施できる体制を作りたいです。

また、地域の行政等と協議し、フィールド整備にも力を注いでいきたいです。

団体の概要

兵庫県北部但馬地方を中心に、ツリーイングやマウンテンバイク、シャワークライミング、ロッククライミング、スノーシューハイク、ネイチャーゲームなどの自然体験活動の安全な普及を目的として活動しています。また、年間をとおして、子どものキャンプ企画とその実施、指導者の養成講座事業の開催及び指導者派遣事業等も行います。平成12年4月1日に但馬自然体験活動推進協会として設立。平成19年5月20日に青空netに名称変更。平成22年8月5日に一般社団法人格取得。

『わくわくどきどき実験室』 空気の科学「ホバークラフトを作ろう」

募集対象／小学生 活動日／平成22年12月11日（土）、12月25日（土）（2回）
 実施団体名／『わくわくどきどき実験室』 実行委員会
 構成員数／4名 子どもゆめ基金助成回数／4回
 連絡先／〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1 尚絅学院大学子ども学科山崎気付
 TEL・FAX：022-381-3498 E-MAIL：y_yamazaki@shokei.ac.jp

活動の概要

本活動は『わくわくどきどき実験室』の子どもゆめ基金助成5活動の1つとして行われました。掃除機のモーターを動力とした1人乗りのホバークラフトを製作し、子どもたちに体験搭乗してもらいました。浮揚感を感じたり、ホバークラフト模型を作成し遊んだりと盛りだくさんの活動です。空気の力や摩擦力について体験的に学び、科学を身近なものに感じることができるようなプログラムとしました。



模型を使って走る原理を説明

活動の日程・内容

12月11日（土）・12月25日（土）	
10:00	参加者集合、挨拶、説明
10:10	講座開始
	① ホバークラフトとは
	② 模型を使っての説明
	③ 体験搭乗
10:45	④ 工作の開始
11:15	完成 遊びながら体験
11:25	まとめの話、感想発表、挨拶
11:30	解散

活動のポイント（体験）

- ①ホバークラフト（空気の力で浮き上がり、地面からの摩擦抵抗を減少させて移動する乗り物）を知らない子ども達が多い為、まず映像を使って教えました。
- ②当会開発の一人乗りホバークラフト（掃除機のモーターを使った電気式）に実際に搭乗することで、子どもたちは始めは、モーターの音に驚きます。おっかなびっくりホバークラフトに乗りますが、その滑らかな浮遊体験により、こわばっていた表情が満面の笑みに変わり、いつまでも何度でも乗ってみたい様子でした。



ホバークラフトに乗って滑走体験

活動のポイント（工作）

風船・ストロー等を材料として使用しました。身近な材料が実験道具に変化する過程を子どもたちはわくわくしながら体験しました。一から全て自分で工夫し作ること、うまく動かすこと、直すこと、子どもたちはたくさんのことを学びます。高学年の子が自ら教えてあげる場面も多々ありました。

活動のねらい

ホバークラフトへの搭乗を通して、空気の流れ、摩擦係数の変化を体感的に学び、また疑問解決のための実験でもあるホバークラフト模型の製作を通して、身近な材料や道具を使った科学工作の基礎を学ぶことをねらいとしています。



活動の成果

- ①空気の力、摩擦の力、慣性の法則の学習など、多くの科学的事象を楽しみながら、ステップを踏んで体験させることができました。身近な材料を使い工作していくことで、子どもたちに科学の身近さと工夫することの大切さを学ばせることができました。
- ②活動後のアンケート等でも「とても楽しかった」「またホバークラフトに乗りたい」「工作は楽しくできた」等の声が寄せられました。
- ③保護者からも「楽しい活動であった」「他の活動にも参加させたい」との声をいただきました。



この活動を実施したことによる団体の成長

大人には簡単でも、子どもたちにとっては丁寧な説明が必要であることを、普段子どもと接する機会が少なくなっている大人も、この活動を通して体験します。このことは本会の他の活動に関しても同じで、子どもと関わる際のよい経験となり、ボランティアスタッフの育成の機会としても大変有効でした。また、団体構成員や講師、ボランティアスタッフ内での教材研究を深める機会となりました。ホバークラフト作りの活動は本会メンバー同士の意識向上の土壌となっています。



さあ！ 君のCDホバーを作ろう



CDホバー滑走試験、走ったー！

活動の課題

- ①フィルムケースを集めることが難しくなっており、代替の材料が見つかっていません。
- ②構造が簡素なため、工夫次第で教材を開発することは可能ですが、1年生から6年生までを対象とした90分の活動では個人差が大きく表れ、工夫が必要となっています。
- ③風船を膨らませられない子どもへの指導や、千枚通しなどの道具の使用には個別の対応と安全への配慮が求められます。
- ④参加スタッフの増員と教育や経験の積み重ねが必要となっています。

今後の展望

一人乗りホバークラフトの性能を安全に向上させ、搭乗体験の部分を発展させたいと考えます。例えば、講師がホバークラフトを操縦しながら登場したら、子ども達の驚きも大きいと思われます。また、別の材料などを使って、ホバークラフト原理を応用した工作も展開させ、体験の広がりを持たせたいと考えます。体験中心の活動のなかで指導者が学びの意図を整理し、その成果を確認できるようなシステムを作ることで、活動提供者側の評価を行えるよう整備したいと考えます。

団体の概要

文科省「子ども居場所」の一環で2004年にスタートした斎藤報恩会自然史博物館「わくわくどきどき実験室」を、名称そのままに継承した市民サークル。児童館などで科学教室を開催し、子どもの健全育成を目指しています。構成員数は少ないですが、講師やスタッフを随時外部から招いて経験者を増やし、わくわくどきどきの輪も広がっています。

身近な科学を探究する科学実験体験2010

募集対象／小学生・中学生・高校生 活動日／平成22年10月30日（土）、12月11日（土）（2回）

実施団体名／鳴門教育大学 早藤幸隆研究者グループ

構成員数／3名 子どもゆめ基金助成回数／2回

連絡先／〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748

TEL・FAX：088-687-6409 E-MAIL：hayafuji@naruto-u.ac.jp

活動の概要

生活環境に関連する素材を使って、限られた時間内に様々な分野の科学実験を子どもたちが体験しながら、身近な科学の考え方、基礎的な内容の学習、実験操作の習得を目指して、子どもたちの理科や科学技術に関する興味・関心の向上に主眼を置いた二つの身近な科学を探究する活動を実施しました。



活動内容をわかりやすく説明

活動の日程・内容

10月30日（土）	
イオン液体における物質科学を探究する科学実験体験2010	
12:40	受付開始
13:00	体験概要説明、内容・方法・原理の説明
13:40	〈イオン液体の物性確認〉 〈イオン液体を用いた電気分解実験〉 ・水の電気分解と燃料電池 ・時間と電圧の値をグラフにして比較しよう！ 〈イオン液体を用いた化学反応実験〉 ・酪酸（臭い匂い）とエタノールから酪酸エチル（パイナップルの香り）を作ろう！ ・サリチル酸と無水酢酸からアセチルサリチル酸（アスピリン）を作ろう！
16:00	活動のまとめ、アンケート調査

12月11日（土）	
天然植物ベニバナを用いた科学実験体験2010	
12:40	受付開始
13:00	体験概要説明、内容・方法・原理の説明
13:40	〈ベニバナ色素の抽出と分離実験〉 ・液性の違いによる色素の抽出と分離 〈ベニバナ色素の錯体反応実験〉 ・ベニバナ色素と金属イオンとの反応 〈ベニバナを用いた染色実験〉 ・ろ紙・綿ハンカチを用いたサフルイエロー（黄）とカルタミン色素（紅）による染色 ・金属イオンと漂白剤による染色作品のお絵かき
16:00	活動のまとめ、アンケート調査

科学実験活動のポイント①

実験器具・装置や試薬を一人一人の子どもたちに配置し、可能な限り個別実験が行える場面を多く作ります。科学実験においても、子どもたちが主体的に活動に取り組み、科学する事のわくわく感や満足感、実験結果を導き出す達成感が得られます。例えば酪酸とエタノールから酪酸エチルを作る化学反応実験では、酪酸エチルをパイナップルの匂いとして捉え、目に見えない物質の変化を五感で想像する姿が見られました。「イオン液体でもっと合成したい。」という声が多く、本活動が子どもたちに魅力的で、環境に調和した科学の大切さや物質を作る面白さと楽しさを実感させることができました。

科学実験活動のポイント②

科学体験の指導者はティーチング・アシスタント（理科教師を目指す大学生）です。ティーチング・アシスタント指導の勉強会を実施しました。勉強会では、子どもたちに適応した実験内容や方法を検討し、活動における指導計画、説明のためのフリップ、理解度を確認するワークシート、活動評価のためのアンケートを作成しました。勉強会により、実験の前に写真や図・絵などを用いて、子どもたちに活動への興味・関心を高めるように工夫した講義を行うことで、子どもたちを支援しながら活動に臨むことができました。

活動のねらい

イオン液体やベニバナ色素は、化粧品・食品などの生活環境やバイオサイエンス・電池などのエネルギー環境で重要な役割を果たす物質である事に着眼しながら、子どもたちに自然環境に優しい科学の在り方への理解を促す事です。



活動の成果

子どもたちは事前の予備知識がなくても、講義や実験・観察の説明を充実させる事により、主体的に活動に取り組み、身近な色素の面白さや環境保全を志向する科学を体験しながら、理科や科学技術に関する興味・関心の向上に繋がりました。



この活動を実施したことによる団体の成長

指導者の層が厚くなり、多くの子どもたちに活動の機会や科学実験体験において豊富な内容を提供でき、継続的な活動が可能となりました。



アスピリンの白い粒が沢山出てきたぞ！

活動の課題

参加者のアンケートや子どもたちの声から活動におけるニーズを分析・把握し、課題を見つけています。

理科の学習内容を相互補完しながら、充実した科学実験体験を子どもたちに提供していきたいと考えています。

今後の展望

日常生活における簡単な科学的現象から、子どもたちの何故や疑問を引き出すと共に、それを科学的に考える力へと誘導し、現象の意味を理解させながら発展的な内容に展開可能な活動を実施していきたいです。



はじめてのピペット上手く使えるかな？



ワークシートに実験結果を記録

団体の概要

次世代を担う子どもたちを対象として、身近な素材を用いて日常生活における科学的な現象を探究する科学実験体験活動を企画・立案し、子どもたちの理科や科学技術に関する興味・関心の向上を図ると共に、総合科学的な自然観の育成を目指した事業を展開しています。

巨大紙相撲大会「どんどこ! 仙台秋場所」

募集対象／子ども会・家族・友達 活動日／平成22年10月24日（日）（1回）

実施団体名／仙台市子ども会育成会連合会

構成員数／4,700名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平四丁目10-16

TEL・FAX：022-279-4124 E-MAIL：y-hashigami@sunny.ocn.ne.jp

活動の概要

1.8m×0.9mの段ボール2枚で巨大な紙相撲力士を作り、ベニヤ板で作った3m四方の土俵上で相撲を行います。仙台市子ども会育成会連合会として、巨大紙相撲大会を実施するのは今回で2回目となりました。



みんなで協力して力士づくり

活動の日程・内容

10月24日（日）	
9:00	受付開始
9:30	日程、力士作り説明 力士づくりワークショップ
12:15	昼食
12:50	各部屋顔合わせ・組み合わせ発表
13:00	土俵入り・開会式
13:20	予選トーナメント開始
14:00	決勝トーナメント開始
14:40	表彰式
15:00	成績発表・閉会式

力士づくりワークショップのポイント

応募した各チームが段ボールに好きな図案を書きます。相手と組み合わせる都合上、大きさや腕の角度などにきまりがあるため、新弟子検査を実施します。力士は、色付けをしたりまわしを付けたりしてきれいに仕上げていきます。完成した力士には名前が付けられ、のぼり旗も作ります。出来上がったら記念写真撮影です。かわいらしい力士があったり、少しこわそうな力士があったり、作成された力士はどれも個性的です。

力士を部屋ごとに分けることによって部屋ごとの一体感を作り出します。はじめは見ず知らずだった子どもたちも活動をとおりて交流が深まっていきます。



親方の化粧まわしです

巨大紙相撲大会のポイント

完成した力士は、部屋ごとに分けられ親方を先頭に土俵入りをを行います。その後、トーナメントで対戦を行います。参加者はいっせいに「どんどこ、どんどこ」とベニヤ板で作った土俵をたたき勝ち負けを決めます。本番さながらの行司のさばきがありますが、ほぼ同時に倒れたり、勝負がつかず水入りになったりすることもあります。

力士の製作を指導したスタッフや行司、親方等を務めたスタッフと、勝敗を競うことで応援し合い、ともに悔しがるなど一体感をもち大人同士の交流が深まる場面もありました。

地域の方々に協力してもらうことで地域を活性化することができます。

活動のねらい

- ①子どもの健全育成と地域・参加者間の交流を図ることです。
- ②子ども会活動の活性化、さらに地域教育力の向上を図ることです。
- ③子どもたちの創造性を高め、巨大紙相撲の迫力や醍醐味を体感させることです。



活動の成果

- ①子ども同士の交流、子どもと大人との交流という視点では、大きな成果をあげることができました。
- ②勝敗を競うことで、部屋毎の一体感が生まれ交流を生むことができました。さらに、活動をとおして地域とかかわりを持つことができました。
- ③地域からは、さらに大きな活動にして地域を盛り上げてほしいという要望も聞かれるようになりました。



この活動を実施したことによる団体の成長

多様な団体・地域と、事業を通じた交流によって人的・物的な支援を得られるような関係を結ぶことができたことです。社会教育主事の資格を持つ先生方の任意団体や市民センター（公民館）、町内会などと、互いのもつ事業のノウハウや事業に関連する物品をやりとりする中で、団体相互の関係性を深めることができました。



個性派力士の勢揃い



それ！ みんなでどんどこたたけ

活動の課題

- ①交流が一過性であるため、どのように継続性を持たせるかが大きな課題です。各地域から様々なチームが集まっているため、難題ではあるが今後検討をしていきたいと思っています。
- ②スタッフ不足があります。活動内容を熟知したスタッフが必要です。

今後の展望

さらに多くの子ども会にこの活動を認知してもらい活動を盛んにしていきたいです。年齢や性別に関係なく参加できる活動であるため、単位子ども会や地域子ども会、さらには学校単位で活動に参加してもらえよう活動にしていきたいです。

今後さらに地域・団体との交流を促進し、活動を通して子どもの夢と希望をはぐくむ社会教育団体として成長していきたいと考えています。

団体の概要

昭和51年4月に、市内の子ども会運営や活動の支援と健全育成を目的に結成した社会教育団体です。平成22年度現在、加入団体数115団体、会員数約4,700人です。

事業としては、子ども会活動への指導者派遣、役員の研修、資料・情報の提供、相談助言等を行い、子どもたちの健全育成を支援しています。また、育成者の研修、インリーダー研修会、わくわくキャンプ、巨大紙相撲大会等の事業を実施しています。

夏休みリズム・サウンド体験

募集対象／小学生・中学生 活動日／平成22年8月24日（火）～8月28日（土）（5回）

実施団体名／JuJu（ジュジュ）

構成員数／4名 子どもゆめ基金助成回数／3回

連絡先／〒737-0912 広島県呉市焼山本庄1-10-19

TEL・FAX：0823-33-0774 E-MAIL：jiske@mail7.alpha-net.ne.jp

活動の概要

子ども達の今の声をCDに録音し大人になっても聴くことが出来る形に残す録音活動として2008年から活動しています。複数の人と一緒に取り組む過程で自分の考えを発表したり、人の気持ちを押し量ったり、目には見えない『心』をテーマに活動しています。プロのサポートにより、音楽に苦手意識を持つことなく、誰でも自然に表現活動が出来る点が、この活動の魅力です。



発声練習

活動の日程・内容

日程	活動内容	
8月24日（火） 10:00～11:45	テーマ： ころろ～人のキモチ・自分のキモチ～	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介ゲーム ・友達の書いた詩から想像してみよう（学校の平和学習からテーマは『平和』） ・自分の感じたことを言葉にしてみる（プリントへの書き込み）
8月25日（水） 10:00～11:45	テーマ： （チャレンジするキモチ） ～あたらしい体験～	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介ゲーム（途中参加者の為に） ・英語の発音（歌詞中の英語部分を先生が発音し、マネをして発音する） ・創作リズム（ケチャを聴きケチャのまねっこ遊びをする） ・曲中にキモチを入れる（考えた言葉を当てはめてみる）
8月26日（木） 10:00～11:45	テーマ：（自信を持って!） ～復習しよう～	<ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて歌ってみる ・曲の進行を確認（セリフの部分と曲の部分）
8月27日（金） 10:00～11:45	テーマ：（思いを伝える） ～ゆっくりはっきり 心をこめて～	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を通してみる ・恥ずかしがらずにマイクに向かってみよう（セリフ） ・ケチャっばい僕らのリズム（出来たリズムを組み立てる）
8月28日（土） 14:00～15:30	テーマ：力を合わせて ～録音体験～	<ul style="list-style-type: none"> ・機材の説明（特にラインを踏まないよう注意） ・今の声、思い出を大切に録音する ・緊張感、達成感を味わう。（録音した音を聴く） ・ジュースで乾杯！

活動のポイント

- ・活動に必ずゲーム等の導入を取り入れて、興味を持たせキモチを高めていくよう工夫をします。
- ・初めて何かにチャレンジした時のあたたかいキモチを感じられる内容にします。
- ・その瞬間を大切に一生懸命に取り組んでもらい、達成感を味わうことの出来る活動にするようにします。

活動のねらい

- ①子ども達に自己表現力の向上と達成感を味わう時の喜びを体験してもらうことです。
- ②自分の考えや気持ちを言葉にしていく活動のため、心の中にある疑問や願い、人のキモチを想像したり思いやったりする時間を持ち、一つの作品を仕上げていく過程を体験することで、チャレンジ精神や、達成感を味わってもらうことです。



僕のキモチは

活動の成果

少人数ながら、初回から続けて参加してくれる子どもが多く、二年目以降の特徴としては「今度はこうしたい」という次の案を持って参加している点で成長を感じます。そしてレコーディングという体験を新鮮に感じつつ、大人になって当時の考えや声を懐かしく感じる記録として残る点で、本人はもちろん親御さんにも好評でした。

活動の課題

最近の子どもは多忙で、小学校3、4年になると塾通いがスタートし、ゆったりした時間をなかなかもてません。内容的に満足のいくものでも沢山のチラシで宣伝しても、塾には勝てないのが現実です。今後は広報活動が課題です。

この活動を実施したことによる団体の成長

子ども達への体験活動を通し、団体としての活動の場が増えました。この度の東日本大震災復興支援プロジェクトの立ち上げに向けて、企画活動の基礎を学んだという点も大きいと思います。また、2010年に作った曲をチャリティー・コンサートで皆さんと大合唱する予定です。

今後の展望

2011年度は、ゆめ基金助成金での活動は行いませんが、この活動の後、「何年後、今度は弟を参加させたいのをお願いします。」という言葉ももらい、確実に参加者の心をつかんでいます。内容をさらに充実させ、再開したいと考えています。



初めて触れる楽器



レコーディング風景

団体の概要

JuJuは、子ども達にこんな経験をさせてみたい……と願う友人達と結成しました。2005年、地元広島で心臓移植の必要な方への募金活動を目的としたチャリティー・コンサートを企画して約500名を動員。その後、人脈と経験を活かし、感動を共有する空間作りを目指し、地域の子ども達を対象に活動をしています。

ふれあい通学合宿

募集対象／小学生(4年生～6年生)・中学生 活動日／平成22年7月4日(日)～7月7日(水) (3泊4日)
 実施団体名／ふれあい通学合宿実行委員会
 構成員数／24名 子どもゆめ基金助成回数／3回
 連絡先／〒257-8501 神奈川県秦野市桜町1-3-2(実行委員会事務局)
 TEL: 0463-84-2792 FAX: 0463-83-4681

活動の概要

学校週五日制がスタートした年に、市主催の親子防災キャンプを大根小学校体育館で寝泊まりして実施しました。参加者の「面白い企画があれば、またやってみたい」という声がかっけとなり、地域のあらゆる世代が参加できる「ふれあい通学」を立ち上げ今まで8回実施しています。



通学風景

活動の日程・内容

参加者を3グループに分け、3日間で次の各活動を交互に実施

A買い物・夕食準備 Bもらい湯 C高齢者との交流

〈1日のプログラム〉

6:30	起床・朝食準備・館内準備
7:00	朝食・片付け
7:30	登校準備・自由時間
8:00	登校
16:00	A買い物・夕食準備 Bもらい湯 C高齢者との交流体験 (ランドゴルフ・絵手紙・短冊)
18:30	夕食・懇談
19:30	夕食片付け・入浴 (もらい湯に行かない班)・自由時間
20:30	ミニコンサート
21:30	就寝



わら細工づくり

活動のポイント (買い物・夕食作り)

カレーライスや豚丼など子どもたちが作れる献立の材料、調理方法をボランティアと相談し買い物・調理を行うことで仲間と協力しあい、交流を深められます。

活動のポイント (もらい湯)

近所の方々からお風呂を借り、自分の家とは違うさまざまな家庭があることを体験することで、地域の方々と一緒に住む子どもたちとのつながりが深められます。

活動のポイント (高齢者との交流)

ランドゴルフ、絵手紙・短冊作り、わら細工を高齢者の方々に教わることで異世代間の交流を深められます。

活動のねらい

【異学校交流に加え異年齢交流】：学校や年齢の違う仲間達といろいろな生活体験をしながら通学します。

【地域と学校の協働】：地域の通学合宿に興味を持つ団体やボランティアが連携して実施します。

【地域の教育力の向上】：今日、出会いの少なくなっている社会で生きる子どもたちが、地域の人達と交流する中で知恵と視野を広げてもらいたいと考え、支援者側にも見守る意識を生み出すことで、一緒に子どもたちを育むことをねらいとします。



高齢者との交流

活動の成果

参加者アンケートでは、「参加してよかった」、「また参加したい」という回答が多く寄せられています。事業終了後も、もらい湯や高齢者との交流などに参加した方々や学生リーダーと道端で挨拶をしたり、大学祭でまた会ったり、地域と子ども達との交流が生まれています。

保護者からは、「家事などに積極的に協力してくれるようになった。」との声が聞かれ、合宿に参加したことによる成果が少しずつ表れています。

活動の課題

- ①参加者や保護者からは好評を得ていますが、3泊4日の活動は小学生には長期間の宿泊となるため、参加者の健康や安全面での管理など、注意を払う必要があります。
- ②これからは、中学生ボランティアの積極的な参加が考えられます。大学生リーダーの補佐役を担いつつ、将来はリーダーとして地域を支える力になるよう育てていきたいです。
- ③多くの方々に事業に関心を持ってもらえるよう、マニュアル化と活動のPRをしていきたいです。

この活動を実施したことによる団体の成長

事業の当初は、教育委員会が中心に運営していましたが、現在は小中学校や幼稚園のPTAを経験した方々が、今度はボランティアとして実行委員会に加わり、地元自治会や長寿会と協力体制を築き、大根地区の特色を生かした地域主体の取り組みに変わってきています。

地域の学校や大学、個人のボランティアなども広域化しており、この事業を進めていく意識が一層高まっています。

今後の展望

「目をかけても手を出さず」を通学合宿の考え方とし、子どもたちが自分たちで考え、行動することを大事にしています。そして地域で育ったという実感が持てるよう、まずは10年を目標に活動の定着化を進めていきたいです。

現在、秦野市では大根地区に限定されていますが、隣接地域とのネットワークを活用し、広い地域での子どもの育みへ繋がるよう、全市的な取り組みへの展開を期待しています。

団体の概要

大根と広畑のそれぞれの幼稚園（2園）と小学校（2校）、そして中学校の5校をかかえる「大根中学校区子どもを育む懇談会」のもと「ふれあい通学合宿実行委員会」を組織（24名で構成）して毎年5回程度開催し、ふれあい通学合宿（3泊4日）の企画・運営や募集方法を協議しています。委員会は各PTA、小・中学校長、長寿会や商店会など地域の有志、ボランティア、大学のローバースカウト隊、専門家など、教育委員会も後方支援者として参加し、地域ぐるみで活動を実施しています。

「体験の風を起こそう推進月間事業」くじ・あそびの体験ひろば 2010

募集対象／小学生 活動日／平成22年10月31日(日) (1回)

実施団体名／特定非営利活動法人 琥珀の泉

構成員数／10名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／〒028-0001 岩手県久慈市夏井町閉伊口4-35-6

TEL: 0194-53-1105 FAX: 0194-53-1105 E-MAIL: kohakuno-izumi@flute.ocn.ne.jp

活動の概要

この活動は「あそびの体験ひろば」として、難しい課題などは設定せず、誰でも気軽に参加できるように小学生に呼びかけました。参加した子どもたちが楽しみながら、互いの立場を理解するなどの交流を図ることで、子どもたち自身が持つ力や感性を、遊びを通じて得る機会として開催しました。

また、学生サポーターを配置し、子どもたちの活動を理解し、能力を引き出す役割を担っていただきました。



アイスブレイクから学生サポーター別にグループわけ

活動の日程・内容

10月31日

9:00	会場集合、会場設営
9:30	受付開始、参加費と引き換えに2クジ（通貨の代用）を渡す、名札作成
10:00	ホールに集合（輪になる）、開会挨拶、アイスブレイク、友だちづくり、グループ分け グループ毎にそれぞれの素材を購入（1クジでひと包みの素材をゲット） 遊びづくり（グループ単位で素材（日用品等）を使って、アイデアを出し、遊びを考えつくり出す）
11:30	考えたオリジナル遊びを披露、紹介（アピール発表）
11:50	ふりかえり（成果を評価）
12:00	記念撮影、昼食（残り1クジでおにぎりや豚汁をゲット）
12:30	解散

活動のポイント（遊び作り）

1クジでグループ毎に素材の買い物をします。素材は中身を隠し、子ども達は素材の大きさ、形をもとに選択します。家庭用品等の日用品や物品など、普段の生活では、決まった用途で使っている素材を子どもたち自らが工夫して、いろいろな遊びを発見、生み出します。素材の活用のみではなく、子どもならではの発想や感性を引き出すことができます。

活動のポイント （学生サポーターの重要性）

グループでの意見や相談と合わせ、個人の発想を取りまとめるサポーターである学生の役割が重要になり、個人とグループとの兼ね合いと調和がカギとなります。

活動のねらい

子どもたち自らが感じたり、意識することが大事であることを基本として、異なる年代や他地域の子どもたちが、友だちになり、互いの知恵を引き出しあうなどの交流と体験を通して、様々なことを学んだり、子どもたち自らが感じることをねらいとしています。



活動の成果

- ①参加申し込み段階で、子どもたちが自ら進んで、活動に参加してみたいと思ったことが一つの成果です。実際、取り組む姿勢が非常に主体的で集中して取り組んでいました。
- ②当日のグループ活動では、子ども達は初対面にも関わらず、年上の子どもの動きを年下の子どもが観察したり、助け合ったりするなど、子どもたちの世界が広がっていました。
- ③参加した大人側は、子どもを理解し、子どもから学ぶことができる機会となりました。



この活動を実施したことによる団体の成長

今回、初めての活動でありましたが、予想をはるかに超える子どもたちの参加申し込みがありました。加えて、地域住民やボランティアの協力を得ることができました。この活動を契機として、子ども支援活動を行っていくことでのつながりと法人の認知が進んだものと思われれます。また、子どもたちの力が地域を変えることができることを確信できました。



ストロー、S字フック、輪ゴムを使っての遊びづくりの場面

活動の課題

- ①参加する子どもたちが楽しいと感じることが最も大事であることと合わせて、適正な人数での活動がより効果を上げることもあり、参加する人数を今回抑えました。参加できなかった子がいたことが課題です。
- ②ただ単に楽しいのみでは、子どもたちの成長につながらず、真の子どもへの理解がなければこの活動は、成り立ちません。そういった面から、講師の力量に依存しなければならないという課題もあります。

今後の展望

当地域においては、広く多くの子どもたちを対象として、かつ、子どもたちを主体的とした、このような活動を継続することに大きな意義があると考えています。

団体として全ての子ども達にとって平等であり、地域社会と大人の責務として活動を継続し、子どもたちがより多くの体験や交流を図り、つながりや感性を高めていってほしいと思っています。



素材の買い物場面

団体の概要

当法人は、岩手県北沿岸市町村を対象地域として、主として、障害児支援活動を行っています。元より、障がいの有無にかかわらず、社会的な環境によらずとも、どの子どもも生まれ育った地域で、心豊かに生き生きと暮らしていける社会＝地域の構築を目指して、地域の子ども支援活動全般に取り組んでいます。

特に、今年、東日本大震災で被災した地元法人として、被災地の子ども支援活動にも取り組んでいます。

お兄さんお姉さんから聞くおはなし会

募集対象／小学生、未就学児

活動日／平成22年7月3日（土） 8月28日（土） 10月2日（土） 12月4日（土） 3月20日（日） 計5回

実施団体名／市民子ども塾「あさひ学舎」

構成員数／5名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／〒489-0068 愛知県瀬戸市上松山町1-195

TEL：0561-84-3935 E-MAIL：hae06364@nifty.com

活動の概要

ティーンエイジャーが小学校高学年に、小学校高学年が低学年、低学年が未就学児にそれぞれ本の読み聞かせを行い、地域の大人がそれらの活動を支えるといったあたらしい読み聞かせの場を提供することで、児童・生徒・学生が「本」を身近に感じることを目的とし活動を実施しました。



中学3年生が読む絵本に見入るように聞く小学生達

活動の日程・内容

年間に5回、毎回10時～12時の2時間実施。

7月3日（土）	読み手：大学1年生1名 中学3年生3名 中学2年生2名 中学1年生1名
8月28日（土）	読み手：大学1年生1名 中学3年生3名 中学2年生2名 中学1年生1名
10月2日（土）	読み手：大学1年生2名 中学3年生2名 講師1名
12月4日（土）	読み手：中学3年生3名
3月20日（日）	読み手：大学1年生2名 中学3年生3名

5、6人の青年達が落語の高座形式のように自分の選んだ絵本を2冊ずつ、約20人の小学生や未就学児に読み聞かせをしました。読み手となる青少年には「子どもの頃に読んで感動した本、子ども達に是非読んで欲しい本、それらの本を選んで小学生や未就学児達に読み聞かせを行います。読み聞かせの仕方は自由です。そのまま絵本を読んでよし、音楽や振り付けをしてよし、紙芝居もよしです。

活動のポイント①

年齢の近いお兄さんお姉さんが読み聞かせすることで、話し手は聞き手に対しどのように話をするのか、聞き手は話し手が伝えたいことをどのように聞くのかを学ぶことにより、相手を尊重する気持ちを得られることが期待できます。そこから得られる小さな自信が「生きる力」を育み、「ほめられる」ことで自己肯定力が育つよう活動しました。

本の選択は話し手の自主性を基本にしましたが、季節や行事に応じて主催者からお願いすることもありました。また、読み手だけでなく聞き手からも絵本のリクエストを募ることができて、次回への期待を高めることができました。

活動のポイント②

活動場所は落ち着いて読み聞かせができる和室を選び、状況に応じて紙芝居や絵本をアニメ化したDVDを見せて実施し、読み聞かせの多層化も計りました。



大学生はおちついて読んでいます

活動のねらい

- ① 普段は父母など大人から聞いているおはなしも、年齢の身近なお兄さんやお姉さんから聞くことで新しいおもしろさを発見し、次は自分で読み手になってみようという成長を期待します。
- ② 読み手となった青少年にも、見慣れた絵本を声に出して読むことにより、筆者の思いがより伝わり、絵本の奥深さを感じ取ることができます。



活動の成果

- ① 以前は聞き手であった小学生が、今年度は話し手になりたいと思い、図書館へ行き自分の好きな本を選んで練習したり、話し手であった中学生が仲間を集めて手作りの紙芝居を創作して演じたいと準備を始めたりするようになりました。
- ② とりあげた絵本も50冊を越え、聞き手にはお気に入りの絵本が増え、読み手側との交流も進み、お互いの選んだ本の合評などで絵本への愛着が増しました。



この活動を実施したことによる団体の成長

普段は固定された小学生以下のメンバーで勉強会を行っていましたが、お兄さんお姉さんから聞くおはなし会を開催したことで、一気に大学生まで年齢層が多様化され、活気が出てきました。



仲間がしている読み聞かせを熱心に勉強する読み手

活動の課題

読み手となる青少年が開催日に学校行事や部活動等の理由により人数が集まらない日がありました。また、読み手の青少年は女性の比率が高く、男性が極端に少なかったです。一方、聞き手となる小学生達は男女相半ばしているため、今後は小学生達が読み手になる成長を期待すると共に、教育委員会などを通じて青少年にひろく声かけを行い、読み手メンバーの確保をしなければならぬと考えています。

今後の展望

スタッフにとって子どもと絵本の結びつきが今更ながらの発見の連続であり、読書の力の大きさをあらためて感じています。普段の活動に読み聞かせ以外の読書活動も検討したいです。

お兄さんお姉さんから聞くおはなし会は引き続き開催していくと共に、子どもたちによる読み手メンバーを増やし、読むことによる小さな自信で自己肯定力が育つよう推進していきたいです。



4回目の読み聞かせで堂々としている様子の中学生

団体の概要

ティーンエイジャーが小学校高学年に勉強を教え、高学年が低学年に教え、地域の大人がそれらを支えるといったあたらしい学びの場を提供することで、児童・生徒・学生に「学び」は「楽しいもの」という学びの本質を習得してもらうことを目的として発足。普段は定期的に公民館などに集い、宿題や自主学習を中心とした教え合い学びあい活動を実施しています。

親子のための絵本読み聞かせ活動

募集対象／絵本に興味がある親子 活動日／平成22年4月3日（土）～平成23年3月26日（土）（49回）
 実施団体名／かさい・えほんの森
 構成員数／6名 子どもゆめ基金助成回数／1回
 連絡先／〒675-2354 兵庫県加西市山下町465-2
 TEL・FAX：0790-46-0086

活動の概要

親子のための絵本読み聞かせ活動とそれを担うボランティアや親のための絵本講座を開催しています。絵本を通じて、子どもたちの心を育てる活動となることを目的としています。講師を招へいし、実践を通じて子どもの世界をともに学び、この地域で読み聞かせの輪を広げていく活動をしています。



講師の伊藤恵美さんによるおはなし会

活動の日程・内容

定期的なおはなし会
毎週土曜日 14：00～14：30

絵本の読み聞かせ「おはなし会」を22年度は49回実施しました。

親と子のための絵本講座
5 / 8・7 / 17・10 / 9 14：30～16：00

講師を招へいし、おはなし会を開催。おはなし会の後に保護者やボランティア、今後ボランティアを目指す人を対象に絵本講座を3回実施しました。

プロの人形劇団の公演&絵本とおはなし
11 / 23 13：30～15：30

本物の舞台を見たことのない子ども達にプロの人形劇団の演技と、絵本の読み方や選び方、また人形劇の出典となる絵本の選定方法などをレクチャーしてもらい、参加した保護者やボランティアが講師から読み方を指導してもらいました。

絵本と音楽でつづるおはなし会スペシャル
3 / 5 14：00～15：00

1年の活動の締めくくりとしてメンバーやボランティアから読み手を募り、プロピアニストで作曲家の講師を招へいし、音楽にのせて絵本のおはなしを語るという初の試みを実践しました。音楽の効果音が素晴らしく、絵本の流れにぴったりとはまり、子どもから大人まで幅広く楽しむことができました。

定期的おはなし会のポイント

おはなし会に親子で参加し、絵本の語りを聞くことで、一緒に楽しい時間を過ごしてもらいます。

人形劇団の公演・絵本と音楽でつづるおはなし会スペシャルのポイント

プロの音楽家や人形劇団を招へいし、絵本をどのように扱うかを指導してもらいました。絵本の読み聞かせを行うボランティアやそれらを志す人がこれからの活動に活かせる場になるようにしました。



定例のおはなし会に参加している子ども達

活動のねらい

おはなし会を通じて、子どもと大人がほっとする場所を作り出すこと、絵本が心の成長の一助となることを活動のねらいとしています。



活動の成果

- ①定期的なおはなし会：休まず毎回参加して下さる親子が増えました。子どもたちからは「楽しかったよ、また来るね。」という言葉が、親からは「おはなしを聞くのも楽しいね。」という声を聞くことができました。
- ②絵本講座：参加者から「講座を聞いてから幅広い領域から絵本を選ぶようになった。」「今後、活動に読み手として参加してみたい。」という声を多く聞くことができました。



この活動を実施したことによる団体の成長

以前は、メンバー個々での活動が多かったのですが、助成を頂くことにより団体として講座開設などの方向性が明確になり、新たな取り組みを通じてお互いの知識や姿勢を認め合う場が増えました。話し合いの場も増えて、メンバー間の意思統一を図ることができました。

イベント参加者の中から、団体へ加入し活動に参加してみたいという人が出てくるようになりました。



人形劇団クラルテ元代表松本則子さんによる「絵本とおはなし」より絵本の読み方実践

活動の課題

- ①企画したおはなし会や講座への参加人数は予想を上回るものでありましたが、メンバーによる定期的なおはなし会への参加者が少ないことが課題です。
- ②おはなし会の読み手となって活躍して下さる方を、質のレベルアップとともに啓発、増やしていくことも課題です。
- ③新たに参加してくれる子どもを増やすために、図書館の中だけではなく、活動場所を増やすことも課題です。

今後の展望

今までは資金面で無理とあきらめていた事業の多くを、1年を通じて行うことができました。今後はこれを基礎としておはなし会の質、メンバーの取り上げる絵本のレベルアップにつなげていきたいです。今後は定期的なおはなし会の広報活動にも力をいれていきたいです。

このおはなし会が参加をした子どもにとっては最初で最後かもしれないという考えのもと、読み手にとってはいつも真剣な場であり続けなければいけないと考えています。



「音楽と絵本でつづるおはなし会スペシャル」の様子

団体の概要

年間40回を越えるおはなし会を毎週土曜日午後2時より30分間、図書館で開催しています。メンバーによる学童保育などへのおはなし会も展開中。活動で取り上げた本の記録を続けており、リーフレットである「かさい・えほんの森NEWS」年4回を発行しています。本を発行することでメンバー相互の理解や新しくボランティアをめざす人の啓発に利用しています。

読みきかせステップアップセミナー

募集対象／読みきかせ経験者で、もっと詳しく読みきかせについて学びたい人

活動日／平成22年8月26日（木）～11月26日（金）（7日、計13講座）

実施団体名／にいがた読みきかせセミナー実行委員会

構成員数／6名 子どもゆめ基金助成回数／3回

連絡先／〒950-2053 新潟県新潟市西区寺尾前通1-5-7

TEL：080-5221-8825 FAX：025-267-1491 E-MAIL：ehon@yumeya.biz

活動の概要

参加者が読みきかせ活動中に感じた疑問点や力不足感などを解消し、自信を持って実践活動ができるようになるための活動です。絵本が持っている魅力を見つける視点や、子どもが「聞く」という経験から「読む」という行動に移る成長過程などをやさしく学べるプログラムを作成しました。また、受講者同士の情報交換もできるよう話し合いやグループ活動を実施しました。他の読み聞かせグループとの接点を持ち、実践活動が広がるようにしています。



前青陵大学大学院教授間藤侑先生の講義

活動の日程・内容

日時	時間	テーマ
8月26日(木)	午前	開講式、社会生活を豊かにするボランティアの役割
	午後	情報交換会
9月8日(水)	午前	子どもと本をつなぐ読み聞かせ
	午後	読み聞かせにおける選書のポイント
9月18日(土)	午後	私の絵本創作の原点
10月6日(水)	午前	ステップアップ1 基本に戻る
	午後	ステップアップ2 絵本の魅力を生かす読み聞かせ
10月12日(火)	午前	子どもはどのような体験を経て本を読むようになるのか
	午後	日本と諸外国の読書文化比較
11月9日(火)	午前	ステップアップ3 絵本の魅力を生かす読み聞かせ
	午後	お話会の組み立て
11月26日(金)	午前	読み聞かせ活動の広がり求め
	午後	絵本から広がる世界、閉講式



絵本作家長谷川義史さん講演会

活動のポイント (ボランティアの基本を学ぶ講座)

参加者が持つ情報を共有する為に、各コマ2時間のうち、30分を話し合いの時間にしました。読みきかせ活動経験者である複数のアシスタントを配置し、グループごとの話し合いの方向付けや話し合いの深まりにつながるよう配慮しました。

活動のポイント (読み聞かせの実践)

一人一人の技術を高め実践活動に直結できる活動にするために、読みきかせの実習時間を確保しました。参加者が実際に絵本を読み、実践活動を通して「読み」の深まりを体験的に理解できるステップアップの講座を実施しました。

セミナー修了者が確実に実践活動に参加できるように、図書館との連携を密にし、図書館が実施する読みきかせ活動への参加を促し、また研修の場を確保し今後の成長につなげました。

活動のねらい

- ①実際に活動を経験すると、いろいろな疑問が出てきます。そうした疑問に応えられる学習プログラム構成にしました。
- ②読みきかせを経験した子どもたちが将来、読書に親しめるように成長することができるのがねらいです。その道筋が見通されるプログラムを用意しました。



活動の成果

受講者のセミナーに対する感想は、「期待どおりで満足」「ほぼ満足」に集約されました。



この活動を実施したことによる団体の成長

団体構成員は個性的なメンバーが多いが、活動を成功させるための話し合いを行う度に、それぞれの意見を取りまとめ、一つの企画に仕上げていく実践的な能力が付いてきました。それは、今後の団体の活動の幅を広げ、大きくするための重要な力となっています。

これまでは、社団法人新潟県社会教育協会の事務的作業面でのバックアップが大きな力になっていましたが、徐々にひとり立ちできる力が付いてきました。



鈴木典さんの絵本を使っての指導

活動の課題

参加者は読みきかせ経験者を対象としていますが、読み聞かせ数回の経験者、10年以上の経験があるベテラン、全くの未経験者と様々でした。活動の目玉とした大学の先生の講座も内容が多岐に渡り、講座の設定時間が短く、受講者にこちら側の意図が伝わりにくかったなどの意見もアンケート等から読み取れました。

今後はセミナーのねらい、講座の組み合わせや時間配分を改善し、レベル（難易度）の設定や受講者のレベルに応じたクラス分け等も検討していく必要があります。

現在実施している本の読みきかせ活動は、図書館、保育所、幼稚園などがほとんどです。各学校への活動の浸透も課題です。



受講生による実習

今後の展望

学校等に継続的な活動の場を設け、読み聞かせ活動を浸透させていくためにいくつかの課題がありますが、学校司書の会などの連携や校長会など上部組織との接触も試みたいと考えています。ここから、読みきかせから読書活動への発展過程が紐解かれるのではないかと考えています。

団体の概要

社団法人新潟県社会教育協会が主催した各種講座やセミナーの受講経験者が組織した「教育ボランティアの会」（会長平井葉子）の会員のうち、読みきかせ実践活動に情熱を燃やしている人々により結成されました。

代表の福島春夫は、保育園・書店店頭・学童クラブなど様々な場所での読み聞かせや楽器を取り入れた「絵本らいぶ」などを実践しています。このグループ全体としての活動は限られていますが、団体構成員それぞれが独自に読みきかせ活動を実践しているのが特徴といえる個性的な団体です。

作ってみよう！ いつもは買って食べるもの～生きる力を育む食育教室4～

実施団体名／日本食文化環境研究所

連絡先／〒659-0024 兵庫県芦屋市南宮町6-22 コミカ南宮ビル203

TEL：0797-38-5039 FAX：0797-38-2232

HP：http://foodapproach.com E-mail：kamiki@foodapproach.com

教材の入手先／http://foodapproach.com/yumehp/yume4/index.html

教材開発のポイント

本教材は、食べものや食材が目の前にあって当たり前と思うようになった人々に、警鐘を鳴らします。頭で理解しているつもりでも、経験すると分かっていないことがたくさんあったと感じてもらえる内容になっています。

- ・野菜、加工品など普段手軽に買ってくる食材の作り方を、子どもでもわかるように易しい内容で丁寧に紹介しています。
- ・年齢や経験に合わせたステップアップ方式で、無理なくチャレンジし、達成感を感じてもらいながら、調理まで誘導しています。
- ・現代の子どもたちが忘れがちな食材の大切さや提供してくれる人への感謝の気持ち、自然や天候への興味をかきたてるよう工夫しています。

教材の活用事例・普及状況

〈食べるということ〉

本教材を見た子どもたちが、本教材を使った夏休みの自由研究に取り組んでくれました。

夏休みを見越して6月からオクラの栽培を開始、成長過程の写真を撮り、日記風に感想を添えていました。教材中のオクラを使った和えものを作るため足りない材料を買いに行き、食品表示を見てみたこと、ひとりで行った買い物は少し緊張して、たくさんの種類があるゴマ選びは難しかったことも綴られていました。

〈仕込んだみそでみそ汁作り教室〉

当団体で子ども味噌作り教室を開催しました。教室では、作り方や熟成するまでの管理方法を本教材で説明し、仕込んだ味噌を持ち帰りました。数ヶ月後、前回の味噌を仕込んだ子どもに味噌を持参してもらい、これから仕込みたい子どもも集めて、味噌汁とおむすび作り教室を開催しました。味噌の選び方や手作りのものとの違いについて、本教材の食品表示などを参考にしながら意見交換もしました。今度は家で本教材を見ながら親子での仕込みにチャレンジしてもらうために、大豆やこうじを教材として持ち帰ってもらいました。

教材の概要

当団体が開催している料理教室において、日々、子どもや保護者の食に対する意識の薄さに見過ごせないものを感じていました。少しでも自分で栽培したり、作ってみることを経験すればこのような状況は一変するはずと考え、この教材のテーマが生まれました。

また、日本には気候風土に合ったすばらしい保存食や加工食品があります。先人の努力と知恵の結晶であるこれらの技術を次の世代に伝えていく必要があります。子どもたちへの食育はもちろん、保護者に対するきっかけにもなればと開発しました。

主な対象は小学校中学年～中学生ですが、写真付きの時系列で丁寧に解説していますので小さな子どもも親子で十分楽しめます。

また、小学生を基準とした初級、中級、上級に分かれていますので、自分のレベルに合ったところからチャレンジできるようになっています。項目は全部で4つあり、野菜を「栽培・収穫」、身近なものを手作りする「調味料や保存食、加工品作り」、何から作られているか確認する「食品表示の見かた」、これらを使って料理し食べるという流れになっています。

疑問を持って取り組むと、得た答えが自分のものになりやすいということを考慮し、項目の始まりに音声によるナレーションを入れて子どもの考えが広がるようにしています。食品表示のクイズでは、全問正解者に認定証が出るような仕組みも取り入れました。



食品表示のクイズ。
正誤発表後に解説画面を表示。

栽培、仕込んだ食品で作る料理レシピ。
保護者向けに子ども指導のポイント付き。

団体の概要

日本食文化環境研究所は、日本の食文化の継承と食卓でのコミュニケーションの大切さを伝えるべく食育活動をしています。子ども、親子向けの料理教室を開催し、学校給食の先生方や企業と関わりながら、子どもの生きる力や自尊感情を育て、学力アップにもつながるような食育を研究・実践しています。保護者や教諭対象の研修、市民センターなどで講演も行っています。

平成22年度助成活動で開発された教材一覧

教材の名称	HPアドレス	開発団体名（問合せ先）
五感で楽しむ自然ふれあいプログラム	http://www.naturegame.or.jp/share-more/index.html	社団法人 日本ネイチャーゲーム協会
作ってみよう！ いつもは買って食べるもの～生きる力を育む食育教室4～	http://foodapproach.com/yumehp/yume4/index.html	日本食文化環境研究所
よみがえれ！ 江戸しぐさ —江戸の暮らしを今に—	http://edoshigusa.storageserver.jp/	特定非営利活動法人 江戸しぐさ
「おもしろ紙おもちゃづくり親子教室 —紙おもちゃを作って遊ぼう—	http://omocha.npo-nak.com/	特定非営利活動法人 日本アーカイブ協会
雪を楽しもう～伝承遊び・その4～	http://genki-morimori.jp/karatomo4/	特定非営利活動法人 岐阜県レクリエーション協会
ウェルカム！ ヘルシーアイランド。 健康ツアーに出かけよう	http://www.gakkohoken.jp/kenkojima/	財団法人 日本学校保健会
びっくりどっきり身近な石の世界 —石は地球の贈り物—	http://stone.yume-center.jp/	全国公立視聴覚センター連絡協議会
みんなに元気をあげよう！ チアロビクス	http://cheero.yume-zenshi.jp/	全国視聴覚教育連盟
“食べる” でつながる地球のなかま	http://www.j-muse.or.jp/food/pc/top/start	財団法人 日本博物館協会
塩のひみつ～塩は、自然からの大切なおくりもの～	http://sio.yume-javea.jp/	財団法人 日本視聴覚教育協会
デジタルコンテンツで楽しむ企業家精神 小中学生のためのキャリア教育	http://www.kigyoka.jp/yume/	大阪商工会議所
もっと心で感じたい！ にっぽん大好き 日本の音	http://www.npo-htc.or.jp/otodaisuki/	特定非営利活動法人 人財育成支援センター
木の板で好きなものをつくってみよう。 そして、森を考えよう。	http://slow.gr.jp/kousaku/	特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所
竹のひみつ 東アジアの生活と竹	http://www.takenoko-asia.net/	特定非営利活動法人 日本持続発展教育推進フォーラム
みんなアーティスト！ 子どもが主役のアートイベントマニュアル	http://www.c-c-cnet.org/genkimura/index.html	特定非営利活動法人 ZEROキッズ
子どもたちと学ぶ情報関連権利 (著作権・肖像権・個人情報)	http://www.eled.jp/kodomochosaku/	特定非営利活動法人 eラーニング教育開発センター
「北上する昆虫・植物を捜せよ！ キミも日本列島生物分布調査隊」	http://www.j-chousatai.net/	特定非営利活動法人 地球船クラブ
もっと知ろう！ 賢治さんが歩いた銀河の森とたからもの	http://www.tohoku21.net/ginganomori/	特定非営利活動法人 いわて芸術文化技術共育研究所
佐渡の自然とトキの野生復帰から学ぶ 「食、農、環境」～人と自然の共生～	http://www.sado-ikimono.net/	学校法人 東京農業大学「食と農」の博物館
海のフィールドワーク —指導者支援プログラム（幼児・小学校低学年篇）—	http://marine-fieldwork.com/	しまね海の自然体験活動教育研究会
地域に伝わる自然にやさしい生活 ～先人に学ぶエコライフ～	http://www.nature-ecolife.com/	自然を活用するエコライフ研究会
自然エネルギー体験ランド	http://ene-land.com/	日本デジタルアーキビスト研究会
生物多様性って何だろう？ 奄美の自然から学ぶ、かけがえのない命のつながり	http://amami-ikimono.net/	財団法人 奄美文化財団
防犯劇を作ろう！	http://www.fringe-tp.net/kankyogeki/bohan/	特定非営利活動法人 フリンジアタープロジェクト
ゲームで遊ぼう！ 大好きなおじいちゃん・おばあちゃん！ —みんなの絆を深めるために—	http://game.social-edu-yume.jp/	財団法人 全日本社会教育連合会
心がつたわる 正しくつたえる 話し方・書き方教室	http://kotoba-enjoy.com/	社団法人 全日本きものコンサルタント協会
ユビキタス・おもしろキッチン&エコ課外教室	http://www.gakujoken.or.jp/omoshiroKE/	科学講座研究会
「知っておきたい、受け継ぎたい、日本の文芸・名作文学をさぐる旅」	http://www.j-bungaku.net/	財団法人 出版文化産業振興財団（JPIC）
日本はすごい！ ボクらの国の未来パワー	http://power.yumetrain.net/	特定非営利活動法人 教育改革ネット
全国のe手仕事図鑑を活用した 「子どもディレクター向けe-ラーニング教材」	http://www.gakujoken.or.jp/teshigoto/	公益財団法人 学習ソフトウェア情報研究センター
電子ビジュアル辞書～漢字を絵で覚えよう～	http://www4.e-kokoro.ne.jp/vd/	特別支援教育デザイン研究会

日中韓子ども童話交流事業2010

● 事業の概要 ●

日中韓子ども童話交流事業は、「童話・絵本」を通して日本・中国・韓国の子どもたちが交流し、相互理解と友情を深めることを目的に、2002年の「日中韓国民交流年」を機に始まりました。

第8回を迎える2010年は、参加した子どもは日本48名、中国25名、韓国25名の計98名に加え、概ね大学生となった第1回参加者のOB39名も集まり、特別版として開催しました。

8月17日から23日まで、東京と平城遷都1300年でにぎわう奈良を舞台に開きました。2010年は「風」をテーマに、言葉の壁を越えて完成させた冒険物語など、世界に1冊だけのユニークな作品が完成しました。

今回初の「OB会」では、3カ国の今後の交流のあり方を討議し、「日中韓未来交流・夢マップ」を作成しました。解散式後、あるOBは「仲間に会うことが出来て、本当に感謝したい」と涙をこぼしていました。

● 事業の内容 ●

8月17日、日本・中国・韓国から期待に胸を膨らませた参加者が東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに集まりました。その中には第1回参加者のOBの顔もあり、8年ぶりの再会に喜んでいました。参加者は3カ国混成の10グループに分かれ、オリエンテーションを皮切りに日中韓子ども童話交流事業が始まりました。オリエンテーションでは、河村建夫実行委員会委員長からご挨拶と参加者お揃いのTシャツと帽子を贈呈しました。

翌日には東京・上野に在る国立国会図書館国際子ども図書館を見学し、各国の童話に目を通した子どもたちは興味深そうに見入っていました。見学から帰るとグループ毎に旗作りをして、これから本格的に始まる交流に向けての団結式に臨みました。



団結式

三日目からは、交流の舞台を奈良県に移して、参加者たちは大仏を間近で見学したり、雅楽の世界を体験するなどして日本の文化を通じて中国や韓国との交流の深さを再確認しました。

交流後半からは、グループ毎に手作り絵本製作に取り組み、シカ（日本）、パンダ（中国）、トラ（韓国）の3匹の動物を主人公として「風」をテーマに個性あふれる絵本が出来上がりました。一方OBたちは4グループに分かれて3カ国の今後について討議し、「日中韓未来交流・夢マップ」の作成をしました。



「夢マップ」の作成に向けて知恵を絞ったOBたち



自分たちが作った絵本を発表する子どもたち

それぞれ作成した絵本は最後の夜の「絵本発表会」でグループ毎に発表をしました。参加者たちは他のグループの発表に耳を傾けながら、この1週間にも及ぶ交流会を振り返っている様子でした。OBが作成した夢マップは、解散式の場で参加者へ発表を行ないました。8年ぶりに再会した仲間と作成した未来へ向けた夢マップは、参加者の心に「また仲間と再会したい」という気持ちをより深く刻んだのではないのでしょうか。

こうして6泊7日間の3カ国交流は各国代表者の「交流の風を巻き起こしたい」という宣言文によって、再会を誓い幕を閉じました。

世界に一つだけの絵本

3カ国の子どもたちが男女混成の10グループに分かれてシカ（日本）、パンダ（中国）、トラ（韓国）の3匹の動物を主人公に自分たちの気持ちを託し、グループで一つのオリジナルストーリーを考えました。絵本は1人が1場面ずつ担当し、世界に一つしかない絵本を完成させました。



日本



中国



韓国

「子どもゆめ基金」への寄附団体

平成22年度に「子どもゆめ基金」へ
ご寄附をいただいた方々をご紹介します。

自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日

(あいうえお順・敬称略)

特定非営利活動法人 ACT.JT	アスカ王国ふれあいの旅委員会
株式会社伊藤園	栄光電気株式会社
郷土愛媛と国際社会を 考える会	特定非営利活動法人 子ども文化ステーション
西洋フード・コンパスグループ 株式会社	曽我部 國久
タフカ株式会社	東京コカ・コーラボトリング 株式会社
鳥山 優 (静岡大学農学部)	株式会社 ニッコトラスト東日本
特定非営利活動法人 日本子守唄協会	株式会社八洋
株式会社ヤノスポーツ	有限会社ユウキ産業
株式会社ライフ	渡辺工業株式会社

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からのご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書の中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱東京UFJ銀行	渋谷支店
口座番号	普通預金3025103	
口座名義	子どもゆめ基金	

子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

子どもゆめ基金への支援

検索

子どもゆめ基金ガイド2011

2011年9月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 管理・普及課03-6407-7685 助成課：0120-579081

URL <http://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

教育施設一覽

当機構の全国28施設は、それぞれの地域の立地を活かした様々なプログラムを提供し、多くの青少年の体験活動を支援しています。

国立青少年交流の家

- 1 国立大雪青少年交流の家 (北海道美瑛町)
- 2 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢村)
- 3 国立磐梯青少年交流の家 (福島県猪苗代町)
- 4 国立赤城青少年交流の家 (群馬県富士見村)
- 5 国立能登青少年交流の家 (石川県羽咋市)
- 6 国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市)
- 7 国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
- 8 国立淡路青少年交流の家 (兵庫県南あわじ市)
- 9 国立三瓶青少年交流の家 (島根県大田市)
- 10 国立江田島青少年交流の家 (広島県江田島市)
- 11 国立大洲青少年交流の家 (愛媛県大洲市)
- 12 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市)
- 13 国立沖縄青少年交流の家 (沖縄県渡嘉敷村)



国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

国立青少年自然の家

- 1 国立日高青少年自然の家 (北海道日高町)
- 2 国立花山青少年自然の家 (宮城県栗原市)
- 3 国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西郷村)
- 4 国立信州高遠青少年自然の家 (長野県伊那市)
- 5 国立妙高青少年自然の家 (新潟県妙高市)
- 6 国立立山青少年自然の家 (富山県立山町)
- 7 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市)
- 8 国立曾爾青少年自然の家 (奈良県曾爾村)
- 9 国立吉備青少年自然の家 (岡山県吉備中央町)
- 10 国立山口徳地青少年自然の家 (山口県山口市)
- 11 国立室戸青少年自然の家 (高知県室戸市)
- 12 国立夜須高原青少年自然の家 (福岡県筑前町)
- 13 国立諫早青少年自然の家 (長崎県諫早市)
- 14 国立大隅青少年自然の家 (鹿児島県鹿屋市)

